

令和4年度社会福祉法人白ゆり共生会本部総括

1 はじめに

決定機関としての評議員会、執行機関としての理事会の下で、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組をする責務を等に努めてまいりました。

組織体制にはまだまだ多くの課題を抱えている事も事実とし、本部体制の強化、財政基盤の強化、職員体制の整備等、遅い歩みですが一步一步前進して来ているものと考えています。

法人の理念である、「ノーマライゼーション」社会を目指して、次のことを基本目標として今後とも事業展開を図ってまいりました。

2 法人本部の強化について

- (1) 各事業所で行っていた経理事務を本部事務局で一極集中することで事務の一元化を図って参りましたが、全てを事務局長と本部事務局員の二人では限界がありますので、令和5年度からはパートではありますが、事務局員を増加し更なる一元化に努めて参りたいと思います。

- (2) 経営会議と施設長会議について

毎月1回の施設長会議では事業報告書の様式の統一をはかりながら、理事会の前段としての経営会議を充実させ、各施設の課題を検証しながら、課題解決を図ることとし、施設の課題を共通認識できるよう会議を重ね、一定の機能を果たしています。今後も定期的に開催し、施設長会議と経営会議を通して、理事会、評議員会に向けた意思統一を図ります。

- (3) 法人ホームページについて

令和4年度においては令和3年度の事業報告、決算報告等のみをホームページを通して公開しております。

- (4) 新型コロナウイルスが全世界に感染拡大し、第7波が治まり終息しつつあるとはいえマスクの着用義務は個人に任せ、第2類から第5類に異動したことにより感染者が拡大されるものと予測されている。感染拡大防止のため本法人事業所でもマスク着用の徹底、手指消毒の徹底がなされていたが、実際感染者が発生し、事業所が休止せざるを得ない状況に追い込まれた。本法人は障害を持つ障害者が通所し相談業務においても直接障害者と接する機会が多々あるので、引き続きマスク着用の徹底や手指消毒の徹底を行って行きたいと思えます。

3 施設運営について

- (1) 令和4年度は、各事業所で退職者が生じており、有期雇用職員3名正規職員4名の合計7名が退職であった。しかしハローワークに求人募集をしております。

4 地域との連携

- (1) 社会福祉協議会が先頭に立ち「地域貢献をするための法人連絡会」を立ち上げていただいたので、その連絡会に参加をしながら法人としてどのような手段を講じて地域貢献できるか、模索していきたいと思えます。
- (2) ワクステーションきたかみでは、施設内駐車場において、地元農家と連携を保ちながら利用者が作成した生産物を「産直」という形で行っております。
- (3) しらゆり工房は、施設見学会を企画し近隣の方々に来店の呼びかけを行い交流を図りました。